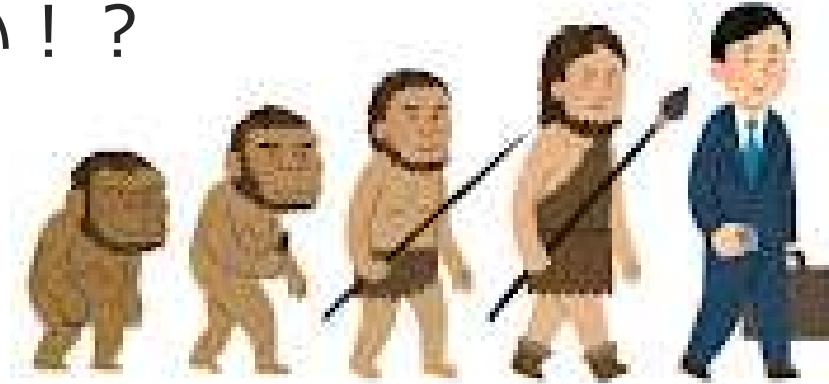


# 投石と忍者

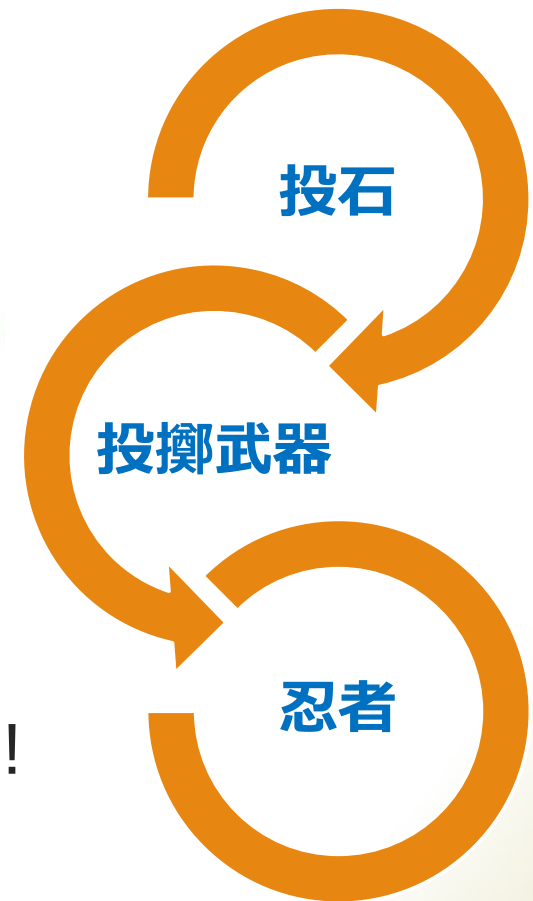
人類が進化の過程で石を投げなければ忍者は存在しなかったかもしれない！？



忍者はなぜ手裏剣を打つのか！？



その答えは投石にあり！



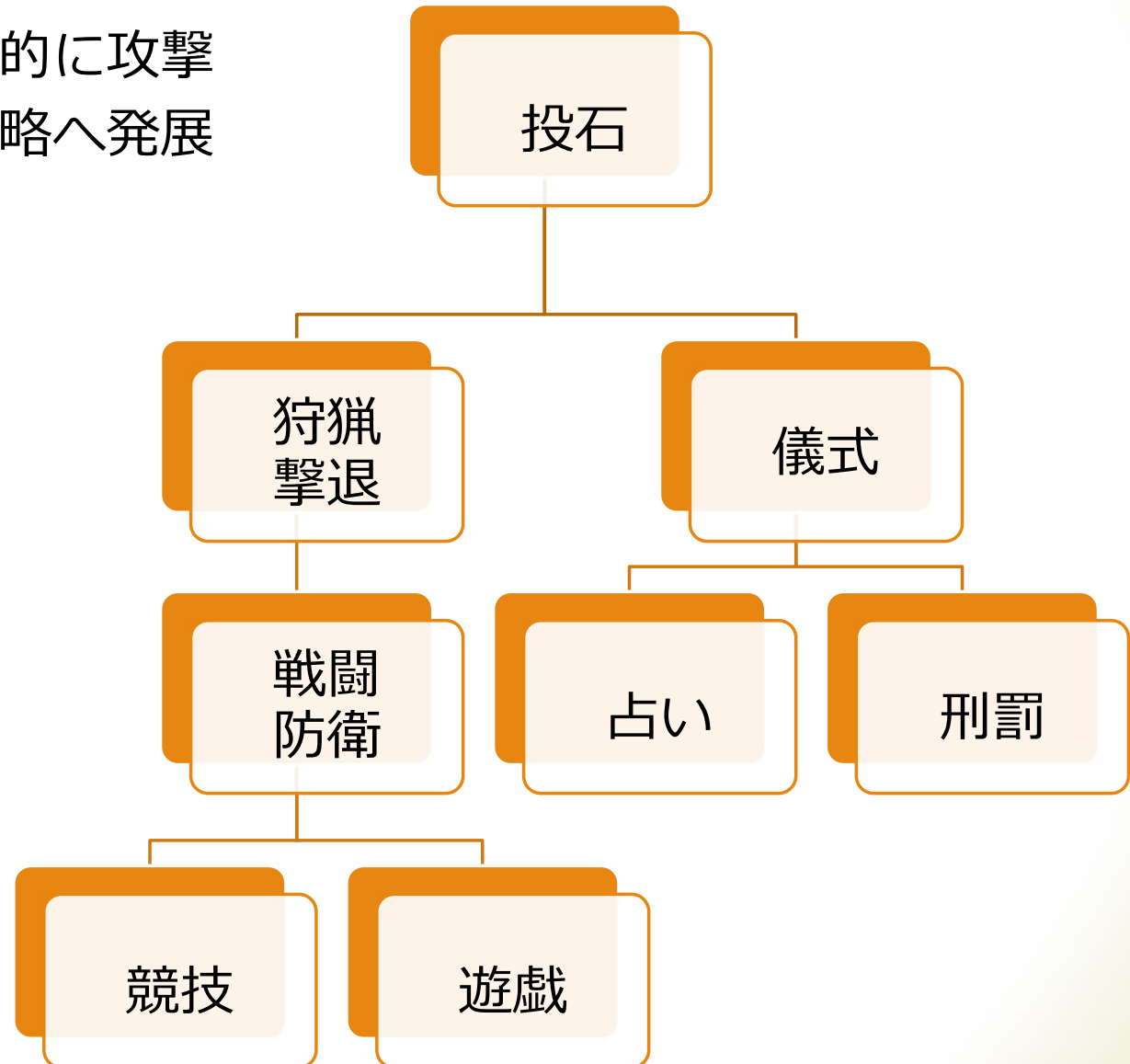
# 世界の投石の変化について

## \* 狩猟や戦闘

安全な位置から一方的に攻撃  
時間的なゆとりは戦略へ発展  
競技や遊戯へ変化

## \* 信仰や文化

石を投げる儀式  
石を投げて占う  
石切りなど遊戯



# 日本の投石の歴史と記録



## \* 弥生時代

- ・遺跡から石弾が見つかる

## \* 平安時代

- ・万葉集や年中行事絵巻に礮や石合戦の記録、絵あり
- ・水の権利・土地争いなどを解決する手段として石合戦も行われた

## \* 鎌倉時代

- ・印地の投石衆（戦闘集団としての記述あり）

## \* 戦国時代

- ・武田軍の投石衆(三方ヶ原の戦いで投石した記述あり)

## \* 江戸時代

- ・島原の乱で礮、石弓の記述あり
- ・第3代将軍家光が石合戦を全国規模で禁止 ⇒ 大人から子供主体

## \* 昭和

- ・石合戦は第2次世界大戦後に鹿児島の一部を除いてほぼ消滅

# 合戦の負傷記録の集計

## 軍忠状(活躍証明)の集計

### 負傷率 (応仁の乱～島原の乱)

鉄砲普及前

・弓 : 60.8%

・礮 : 14.4%

鉄砲導入後

・鉄砲 : 43.6%

・槍 : 21.3%

・弓 : 17.2%

・刀 : 9.3%

・礮 : 8.4%



# 忍者と石

## \* 隠形術

「伊賀者は石になる」と云われます。ウズラ隠れは身を丸め石のようになる隠形術です。また、石を川などに投げ込み逃げたと思わせる、茂みに小石を飛ばし味方がいると思わせる術など。

## \* 容易な現地調達

容易に手に入る石は投げる、手に持って使う事ができる。武器としてだけでなく道具や意識を逸らすなど様々な使い方ができる。

## \* 心の鍛錬

忍者は石のように固く、あきらめない信念が必要。心の鍛錬により意志（いし）を鍛える必要がある。

## \* 戦略と情報収集

投擲による安全な位置からの攻撃が戦略を考える時間を生み、さらに情報によって優位性が増す。結果として積極的に情報収集する謀報が考え出され忍者が誕生する。

# 忍者と投擲や遠距離攻撃など

## \* 目潰し

粉末をばらまき視力を奪う。粉末は和紙に包んだり、卵の殻の中に入れて投げつける事もある。

## \* まき菱

地面にバラまき相手を足止めする目的に使用されたが、投げつける事はなかったと云われている。あられ、こんぺい、といった鉄菱に似た投げつけ武器がある。

## \* 手裏剣、吹き矢

忍者は隠密行動が基本の為、姿を見せない遠距離攻撃のイメージで表現されたのではないか。実態など詳細は不明。

## \* 鈎縄、縄手裏剣（絹索）

縄に鈎や分銅、手裏剣などをつけ飛ばす事で登器、捕縛、攻撃など様々な用途に使える。

# その他の遠距離対応

## \* 弾き

指で小石など小さなものを弾いて飛ばす技法があります。

## \* 気合術

声を発して相手に影響を与える点では遠距離攻撃の一種。声を出さず意念を飛ばす方法や、「氣」を飛ばす事も含む。相手の動きを止める不動金縛りの術は気合い術の一種。

## \* 手ぬぐい

手ぬぐいは多様な使い方がある。一例として投石紐、手ぬぐいの端に石を入れて結べば分銅術にもなる。

## \* 捕火方（火炎放射器）

忍者は火薬の使用に長けていたと云われる。その中で火炎放射器のようなものもあります。